大会概要

テーマ：　機能水の活用とエビデンス　～QOL の向上へ向けて～

大会長：　内藤　博敬（静岡県立農林環境専門職大学　教授）

会　期：2025 年 9 月 13～14 日（土～日）
会　場：静岡労政会館
　　静岡市葵区黒金町 5-1（静岡県勤労者総合会館 6 階）（054-221-6280）
　　https://www.shizuoka-rousei.jp/
主　催：日本機能水学会
共　催：（一財）機能水研究振興財団、ウォーター研究会
協　賛：日本医療・環境オゾン学会、(一社)日本電解水協会、アルカリイオン整水器協議会
　　微酸性次亜塩素酸水協会、日本口腔機能水学会、電気化学会電解科学技術委員会、
　　三遠南信水機能活用研究会
後　援：（公財）ルイ・パストゥール医学研究センター
参加費：会員 6,000 円、 非会員 10,000 円、 学生 3,000 円
技術交流会：会費 6,000 円（一律）
一般演題募集：2025 年 4 月 1 日～2025 年 5 月 31 日
参加登録期間：2025 年 7 月 1 日～2025 年 8 月 15 日（予定）

組織委員会：内藤博敬（委員長）、中野隆史、菊地憲次、堀田国元、

プログラム委員会：内藤博敬（委員長）、才原康弘、須藤良庸、田中喜典、靏　知光

実行委員会：中藤誉子（委員長）、土崎尚史、恒川良太郎、二階堂勝、廣中伸治

大会事務局：日本機能水学会事務局（担当：中藤誉子・堀田国元）
　　TEL 03-3495-0251　E-mail: kinousui-gakkai@fwf.or.jp
　　http://www.fwf.or.jp/gakkai.html

電車：JR 東海道本線静岡駅北口から
　　徒歩 7 分

大会長挨拶

日本機能水学会第 23 回学術大会

機能水の活用とエビデンス ～QOL の向上へ向けて～

内藤　博敬

静岡県立農林環境専門職大学　教授

この度、日本機能水学会第 23 回学術集会を静岡で開催させていただくこととなり、若輩ながら大会長を拝命いたしました。昨年は佐藤 勉先生のご尽力により、人間、動物そして環境を一体的に捉えたワンヘルスやの SDGs の観点から機能水の活用を考えた素晴らしい学術大会・技術交流会となりました。今回は私たちの生活をより豊かにする機能水をさらに広めるための科学的アプローチをテーマに、静岡市の静岡労政会館（静岡県勤労者総合会館内）にて行います。静岡県は 4 本の主要河川を有し、東西に長く伸びる海岸線と富士山、南アルプスを初めとした山々を配す、水と土壌の豊かな県です。こうしたことからお茶やみかんに代表される農林業の盛んな県ですが、県東部は医療・健康関連産業が多く「ファルマバレー」、県中部は食品関連産業を中心とした「フーズ・ヘルスケア」、県西部は光・電子技術を基盤とする「フォトンバレー」の、新産業集積クラスター形成を推進してきたものづくり産業県でもあります。本大会の静岡県での開催は 10 年ぶりですが、静岡市での開催は初となります。依然として東海道新幹線の「のぞみ」は停車しませんので、「ひかり」または「こだま」でゆったりと静岡までお越しいただき、大会を盛り上げていただけると幸いです。

この数年の日本では、地震や火山活動はもとより、ゲリラ豪雨、線状降水（雪）帯や大規模な山火事など、これまで経験したことのない自然災害に見舞われるようになりました。私が堀田先生にお声がけいただいて本学会へ参加したのも、東日本大震災の被災地で行った感染予防啓発がきっかけでした。静岡は南海トラフ地震の被災想定エリアでもあり、前大会のパネルディスカッションで展開した災害時の機能水利用についての議論は今回も深めていきたいと思います。一方で、平時の機能水利用も進めていきたい思いも強くあります。2025 年は、国民の 5 人に 1 人が後期高齢者となり、医療や介護、雇用などの幅広い分野の社会課題が、私たちの生活に深刻な影響を及ぼすと考えられています。こうした中、厚労省では国民健康づくり対策として健康日本 21（第三次）を令和 6 年にスタートしています。健康増進（ヘルスケア）は、個人にとっても生活の質（Quality of life）の向上につながります。機能水の利用は、QOL を構成領域の生活環境や身体的領域に強く影響するものと考えます。そこで今大会のテーマを、「機能水の活用とエビデンス　～QOL の向上へ向けて～」といたしました。

プログラムとして、招待・教育講演をはじめ、理化学技術セッション、一般演題セッション、国際セッション、大会長講演を予定し、準備をすすめております。皆様の参加を心よりお待ちしております。